





誰かの顔を
いつまでも
見つめていたいなんて
思っただのは――

だつてこれが
初めてだから――

恋の味見は
一度だけ

第三話



—それで



結局
あんたら一体
何者な訳？

—ってゆーか
俺に話があるとか
言ってたよーな
気がすんだけど

まず私は
猿渡直哉と
申します

申し訳ありません
それでは本題に
入らせていただきます

単刀直入に申しまして
実は私どもは
とある人物からこの店を
立て直すように、との
指示を受け、本日ここに
やって参りました

はあっ!?
ちよっと待て！



店、立て直すって
何？

—ってゆーか
どこのどいつが
そんな勝手な事
言ってるんだよ！
ここは俺の店だぞっ!!

そのどこのどいつ、と
申しますのは—

レストランチェーン
「王様のキャベツ畑」の
オーナーである
犬竹源九郎氏

蒼馬様
お父上であるかも
しれない方です

ぐもー♡♡



犬竹源九郎
……？

……って



あー!!!

もしかして以前
「パパだよーん♡」とか
言いながら、いきなり
俺に抱きつこーと
しやがったあの妙に
なれなれしいオッサンかつ!!

思わぬ
トリックだもんな
ナニヤ

…間違いない
そのオッサンだな

……

……うん
……うん……





ギャツ!!

叩キッ

あ。



いきなり
何すんだっ!!!

俺の弟かもしれんない
奴のくせに
偉そうな口
利くじゃねエか

面倒見ます、って
お前に一体
何が出来るんだよ?



.....

何が
出来るって
言うんだよ!

禪四郎!



あん!?

適当にやっても
暮らしている程
客が入っているなら
いいですけどね

見たところ
それ程繁盛
しているようにも
見えないし

ムカ

ガタ

借金と
儲からない店
抱えて
この先どうやって
生きていくのか
俺としては興味
ある所だけど



何だこの野郎
もう一度
言ってみー

でも

とりあえず
借金を返せる程度に
儲かる店になるまでは
面倒見させて貰いますよ

仮にも俺の
兄かもしれない人が
あんな変態借金取りに
つきまとわれてるのかと思うと
非常に不愉快きわまりないんで

うわっ
マッパッ